

# 事業継続への取組み促進について

MS&ADインシュアランスグループ  
インターリスク総研 研究開発部  
篠原 雅道

(BCI日本支部代表、MBCI  
BCMSユーザーグループ代表  
BCAO副理事長)

# はじめに～新型インフルエンザの発生と事業継続

- 事業継続への取組みが加速した
- 経営層の理解が深まった
- 事業継続に関する予算が増加した
- 特に影響はない

調査期間	: 2010年7月～8月
調査対象企業	: 日本国内全上場企業 3,733社
回答数	: 420社
回答率	: 11.3%
調査方法	: 質問紙郵送法
調査主体者	: 株式会社インターリスク総研

# 世界の動きを見ながら、多角的な取組みが必要

## 事業継続への取組みは、 世界的な潮流へ!!!

### 確実に増大する脅威

自然災害、IT事故  
新型インフルエンザなどの感染症  
テロ、取引先の操業停止 など

サプライチェーンの高度化・広範化  
取引先からBCMS取組を求められる

ISOなど規格の制定や法、経済的  
インセンティブを含めた体制整備

市場からの評価

世界におけるBCMSの認証制度

- ★国際標準化
- ★英国
- ★米国
- ★日本
- ★アジア各国

政府のバックアップ

BCMS認証取得は、世界で150組織  
日本では、30組織

英国や日本では、公的機関のBCMS  
取組みが進む  
米国では、DHSがBS25999を採用意向

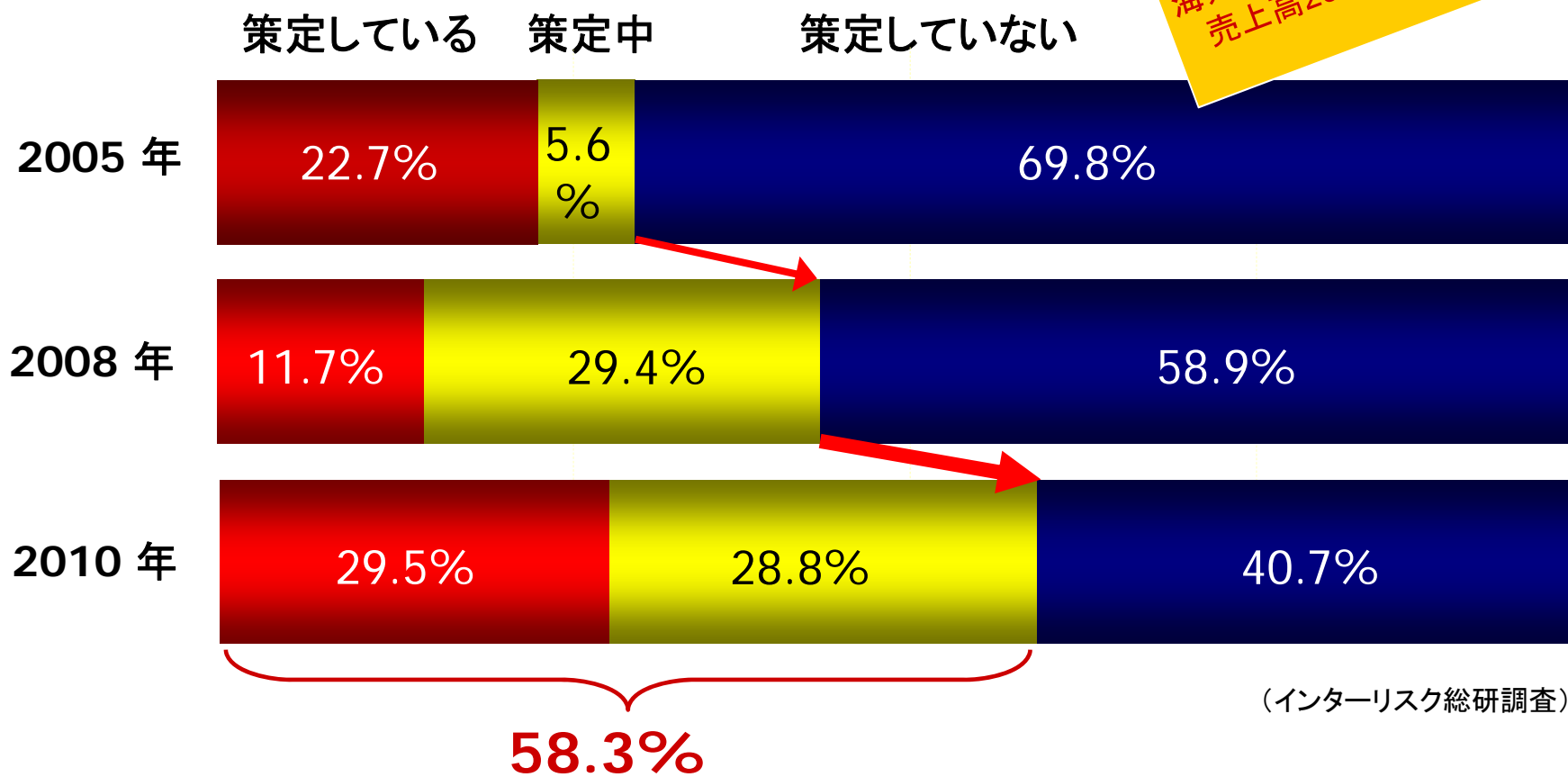
発展途上国のBCMS認証に対する関心  
の高さ

# 日本企業のBCPへの取り組み

基幹業務が停止した場合に目標としたい復旧時間

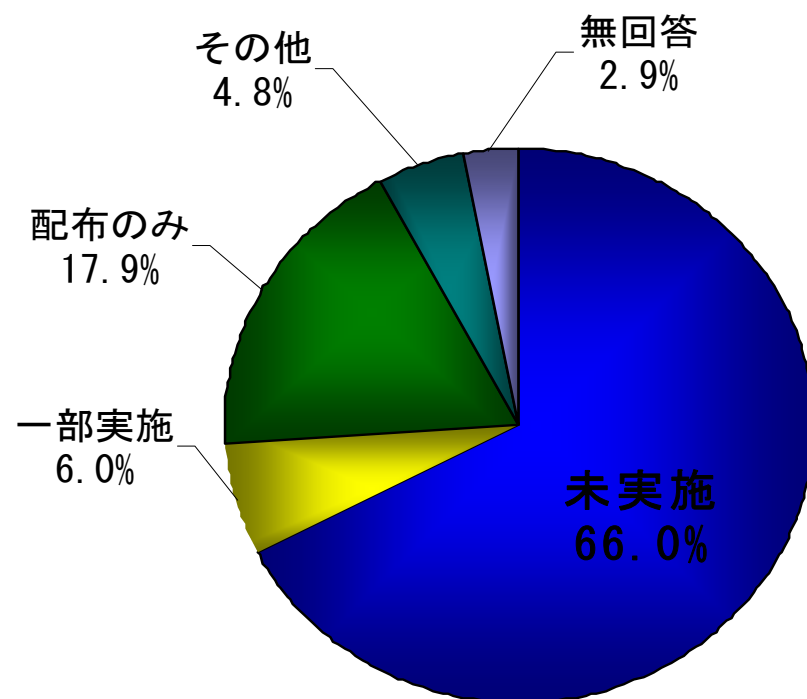
全企業の約6割が…1日未満

海外企業のBCP策定率 全体:47%  
売上高20億円以上:69% by BCI

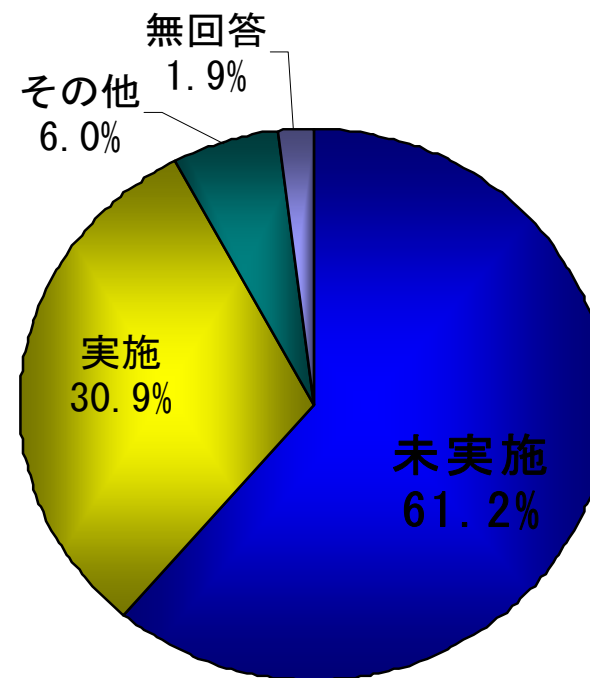


作ったあともやることがある。

## BCM教育の実施状況



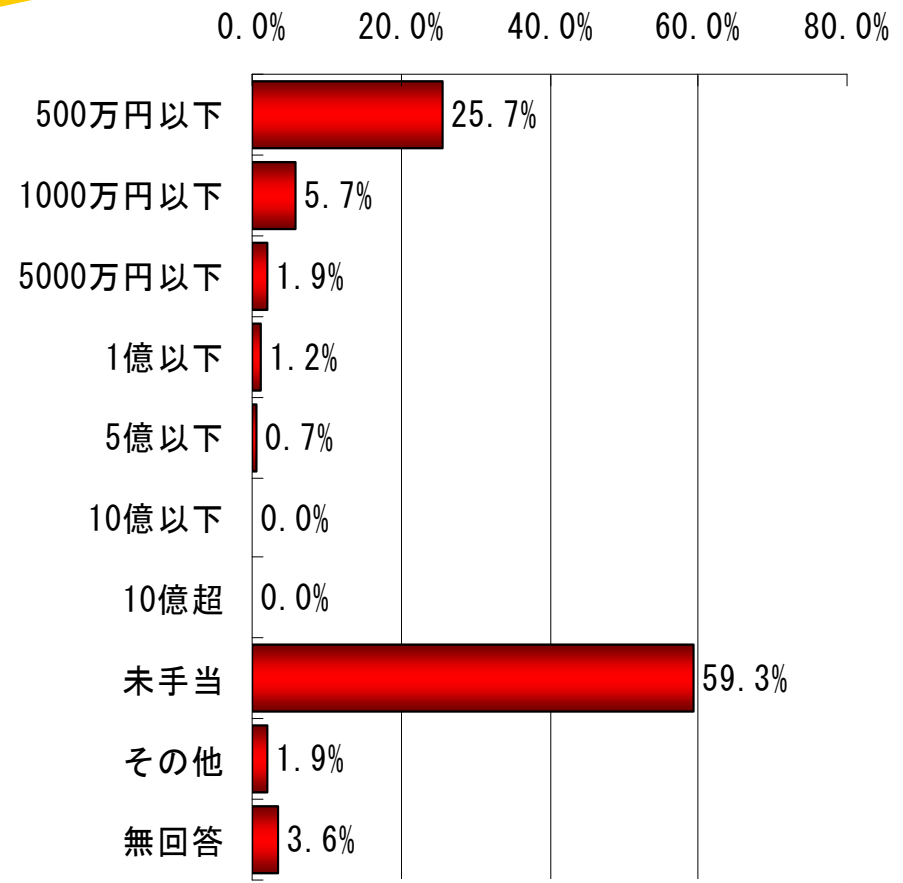
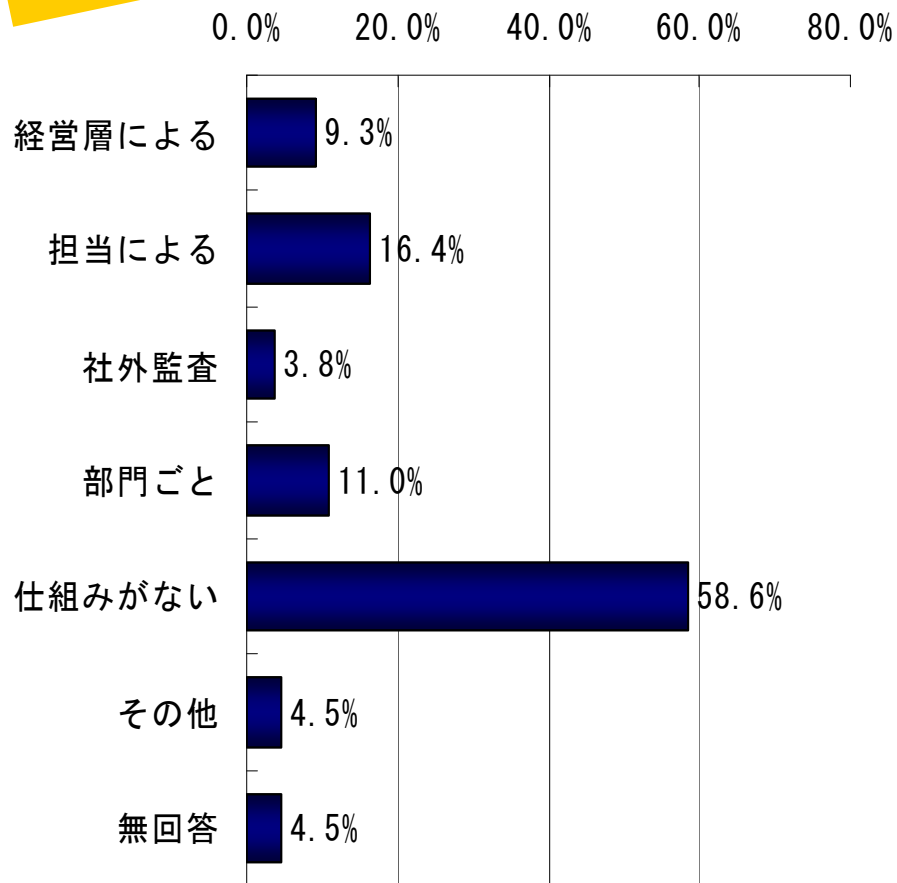
## BCM訓練の実施状況



# 事業継続の能力を向上させるための仕組み調査

有効性評価の仕組みがない！

実施推進のための予算が不足！



# 組織の生き残り戦略

以下が特定されることを目指す

1. 組織の主要な製品・サービスを支える重要な活動と経営資源
2. これらへの脅威／リスク

ISO/CD22301も同様の要求

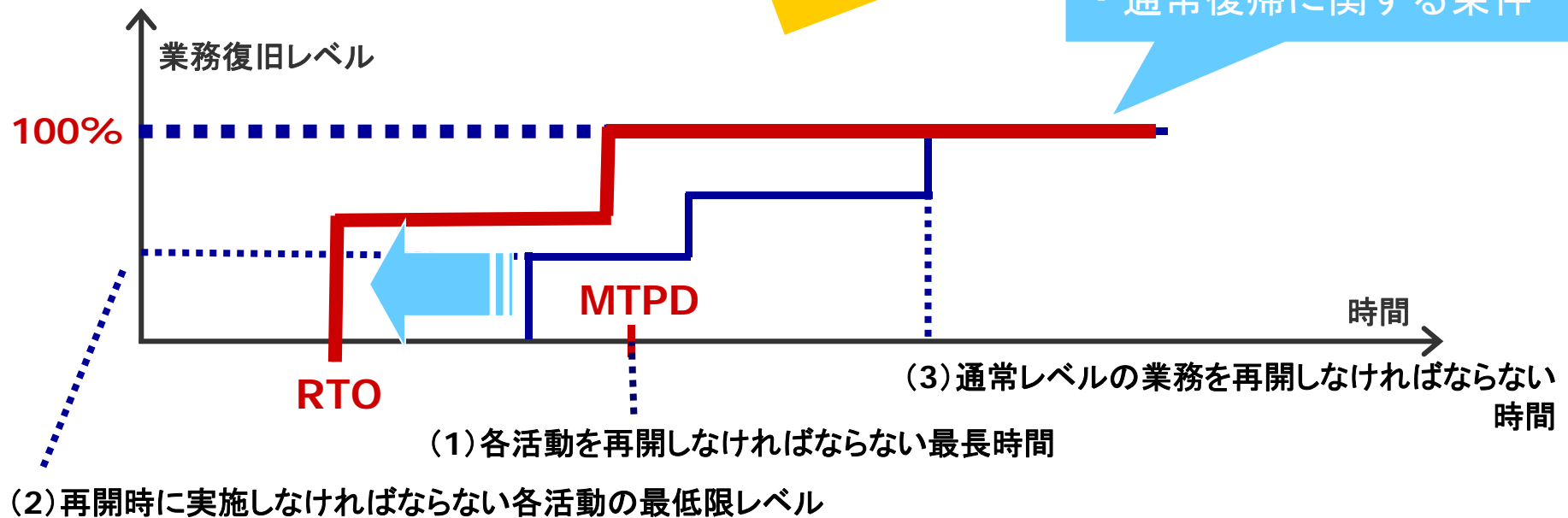
許容限界

## ■最大許容停止時間(MTPD)

## ■目標復旧時間(RTO)

組織戦略

- ・再開に関する条件
- ・通常復帰に関する条件



# 経営者のBCMSに対する考え方

1. 緊急事態が発生した時に、工場の操業が停止するのが非常に怖い。停止しないための仕組みを構築したい。
2. 企業の存続を「仕組みで守る」と「人間が守る」こと両方を実践する
3. BS25999-2に対する認知が広がってきた。BCMSの認証を持って然るべき
4. 顧客、従業員、株主に迷惑をかけない。顧客とは、永いパートナーでありたい。
5. 親会社（本体）が事業継続への取組みを強化しており、当社もBCMSへの取組みを行うことを経営決定した
6. BCMSは危機管理の集大成
7. 中小企業がBCMS認証取得←先進性を評価



# 1. 以下を基軸にした施策の推進

- 国際標準化
- 法規制

# 2. さまざまなリスク意識向上策・訓練の実施

業界ごとの取り組みも含め

# 3. BCM構築への財務支援、税務控除 など

- 企業を強くする。
- 産業を強くする。
- 国家を強くする。

Continuity

**MS&AD**

**MS&ADインシュアランスグループ**

株式会社インターリスク総研  
研究開発部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-2-5

Tel : 03-5296-8920 / Fax : 03-5296-8940

<http://www.irric.co.jp/>